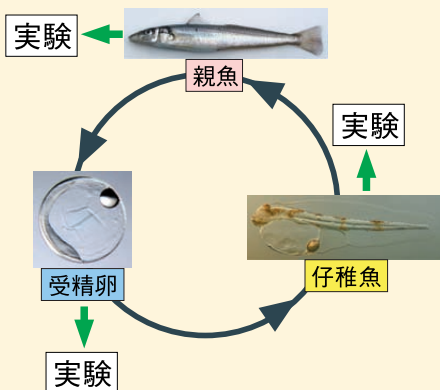


実験魚を育てる(4)

(ご自由にお持ちください)

海生研では、実験魚の生産に関するさまざまな技術をまとめ「毒性試験に用いる海産魚の飼育および繁殖法」として、定量的なマニュアルを作りました。これにより、実験計画に即して必要な時期に必要な発育段階の供試魚を計画的に生産することが可能となりました。生産された受精卵、仔稚魚および成魚は種々の研究に用いられ、これまでに多くの成果を得ています。

実験に応じた計画生産



財団法人海洋生物環境研究所は、発電所の取放水等が海の環境やそこに生息する生物に与える影響を科学的に解明する中立的な調査研究機関として、農林水産省、経済産業省、環境省の共管のもと、昭和50年に設立されました。

これまで大規模発電所の取放水が生物に及ぼす影響の解明を中心に海洋環境中の放射能や化学物質の実態把握等の調査研究を国や民間からの委託を受けて実施しております。

海の豆知識 第23号

平成17年4月 発行

発行所

財団法人 海洋生物環境研究所

事務局 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-29 帝国書院ビル5階 ☎ (03) 5210-5961
中央研究所 〒299-5105 千葉県夷隅郡御宿町岩和田300 ☎ (0470) 68-5111
実証試験場 〒945-0017 新潟県柏崎市荒浜4-7-17 ☎ (0257) 24-8300

海の豆知識に関するお問い合わせは、事務局までお願いします。
<ホームページ> <http://www.kaiseiken.or.jp/>

かいせいけん

海の豆知識

Vol.23

魚名の由来 〈その2〉



財団法人 海洋生物環境研究所

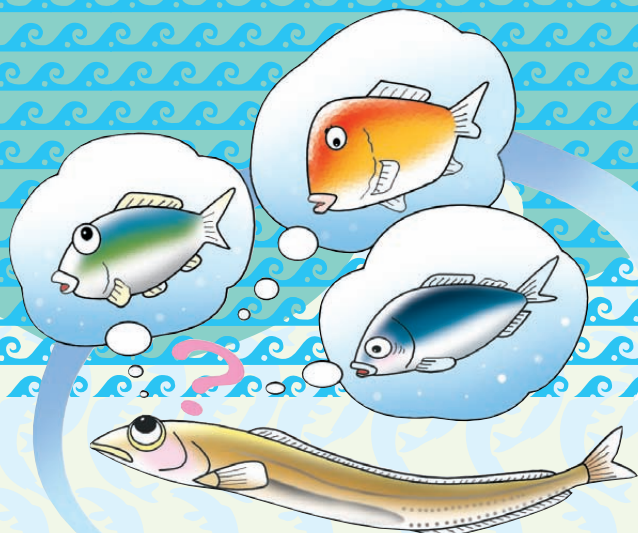
魚名の由来

〈その2〉

——イカナゴ——

海とその生物にまつわる名前の由来についてお話ししましょう。

今回のテーマはイカナゴです。イカナゴは春を告げる魚のひとつです。スズキ目イカナゴ科に属し、北海道から九州沿岸に分布しています。なかでも瀬戸内海東部から大阪湾にかけては稚魚を対象として、3月に2週間程度の漁期で全国の漁獲量の40%以上を水揚げしています。この期間は、ある組合長曰く「イカナゴ戦争」の如くとか。1年で成熟しますが、水温が高くなると砂に潜って夏眠するという珍しい生態をもっています。



イカナゴ？
(如何な子)？

1

「イカナゴの名前の由来」

イカナゴの語源としては、ある人がなんの子供(稚魚)なんですかと尋ねたことに、なんの子供(稚魚)であるか分からないので、「いかなこ(如何なる(魚の)子であるか)」と答えたことに由来するとする説が有力です。漢字名は「玉筋魚」と書かれることもあります。

地方名も多く、コウナゴ、カマスゴ、メロードと様々です。特に、東日本では成長するにしたがって、コウナゴ、オオナゴ、メロードと呼び名が変わりますが語源ははっきりしないようです。漢字では小女子、大女子、女郎人と付けられています。

2

「^{くぎに}釘煮^{ゆらい}の由来」

関西ではこのイカナゴを使った釘煮が有名です。昭和10年頃神戸市垂水区の魚屋さんに「イカナゴを佃煮にしてくれないか」との依頼があり、イカナゴに醤油・砂糖(ザラメ)・生姜を使い、苦労して炊きあげたそうです。その後評判になり魚屋さんの店頭にも置くようになったとか。「釘煮」の名称は、昭和30年代半ば頃に神戸市垂水漁協の組合長さんが、出来上がりを見て「さびて折れ曲がった釘」のようだと言われたことが「^{くぎ煮}煮」の由来であったとのこと。今では各家庭で我が家流「釘煮」を炊くようになり、関西に春をつける風物詩のひとつとして挙げられています。